

③ 活動のし方の具体的計画を各委員会ごとに作成する。

◦作業現場までの歩行 ◦作業の手順 ◦準備品 ◦注意事項(約束ごと)

本時の活動

① 集合整列…◦5校時終了後、体育館前に集合し、委員会ごとに2列縦隊に整列、人員確認をする
↓(15:05~)(委員会の代表が、列の前後につき、担当教師は適所に位置する。)

② 移動…◦委員会ごとに、各活動場所へ移動する。

↓(15:15~)(交通ルールを守って歩行、活動場所まで10分程度)

③ 活動…◦活動場所到着後、活動内容・手順・分担区域をみんなで再確認する。

(15:25~)(委員会ごとの分担区域に分かれ、活動を始める。)

(教師は、それぞれの担当委員会に分かれ、児童とともに活動に入る)

- 空き缶や大きなごみを拾う者
 - 花壇の中の除草をする者
 - 通路を掃く者
 - 電話ボックスの清掃をする者
- それぞれ、各自の分担作業にあたり、しばらくは、静かに落ち着いて取り組み、ひたいに汗して活動する姿も多く見られた。

一部の児童は、話に夢中になったり、拾った雑誌を見たり、みつけた虫で遊ぶ姿も見られたが、それをお互いに注意し合う様子も見られた。

教師は、児童同志で話しあい、はげまし合うのを期待して、特に注意を与えないようにした。

◦委員会ごとに、代表の指示によって、ごみが一ヶ所に集められ、燃える物と燃えない物に区分された。

◦各委員会の代表と一緒に分担区域の見まわりを行い、清掃状況を確認するとともに教師の最終確認を受け、教師の感想を聞いた。

④ 移動 ◦委員会ごとに整列し、持ち物を確認したうえで、帰校の途についた。

↓(15:55~)

⑤ 帰校・解散(16:15)

事後活動

自己評価票を、教育目標に即して作成し、各自に評価させ、これをもとにして、各委員会ごとに反省を行った。

自己評価カード			年組氏名
◦作業中は、あぶないことをしないようにした。	A B C	◦最後まであきないで作業ができた。	A B C
◦ごみなどをたくさん拾ってみんなのため役にたった。	A B C	◦おたがいに協力して楽しく作業ができた	A B C

(5) むすび

特別活動本来のねらいと、教育目標が、内容的に直接関連する部分が多いことは、前にも述べたが、それだけに指導に当たっては、活動内容と教育目標との関連を具体的に図りやすい利点を十分に生かすことが望まれる。

この事例では、まず児童会各委員会のめあてを目標行動として位置づけ、これと教育目標を関連づけているが、このような考え方は、特別活動の

他の内容についても当てはまるものであり、計画立案のうえで、まず手がけなければならないことであろう。また、活動の実施に当たっては、児童の自発性を基本にすえながら、その中で教育目標を児童自らどう意識して活動するように仕向けていくかに、指導の視点をおくことが必要であろう

更に指導計画作成に当たっては教育目標にかかわりのある活動を意図的に計画することも考えてよいと思われる。